

橋の社会福祉「第42号」

発行所 橋地区社会福祉協議会(事務局)
川崎市高津区溝口1-6-10
てくのかわさき 3F
福祉パルたかつ内
TEL 044-812-5500
発行人 森 昭司
編集人 機関紙編集委員会
委員長 佐藤 嘉彦



(社会福祉協議会の会章)

地域に根ざした福祉活動

橋地区社会福祉協議会 会長 森 昭司



橋地区社会福祉協議会の取り組みに対し、日頃から暖かいご支援とご協力をいただき、心から感謝を申し上げます。令和3年度は、延期されていた東京オリンピック・パラリンピックが、無観客という特殊な環境で開催されました。また、ワクチン接種が話題の中心になり、感染拡大は夏の第5波、年明けからの第6波と令和2年度に引き続き新型コロナウイルスへの対策に追われた一年となりました。私たちの活動もコロナウイルス感染拡大防止を第一に考えて、いくつかの事業について中止せざるを得ませんでした。一方で、会員が知恵を出し合って、少しずつではありますが再開した活動もござい

ます。一人暮らし高齢者のふれあいの場として行っています。会食会は、お弁当の提供や一部制にすることで、密集、密接を避けながら開催し、利用者に喜んでいただきました。秋には、地域の皆さまの生活に役立つ福祉の学びの場として、「成年後見制度」「障害者相談支援センター」「傾聴入門」の3つをテーマに「地域ふくし講座」を初めて開催し、3回の講座で延べ60名を超える方々に受講していただきました。新型コロナウイルスの影響が長期化する中で、高齢者は身体機能や認知機能の低下など虚弱が進んでしまうことが懸念されています。また、生活困窮、児童虐待やDV、家族介護者の負担の増加、社会的孤立の進行など、地域において、様々な課題が発生しているものとニュースなどで見聞きしていますが、本会では、「明るく豊かな住みよいまちづくり」を合言葉に、地域に寄り添い、地域に根ざした取り組みの輪を広げられるよう活動に取り組んでまいりますので、皆様の温かいご支援ご協力を切にお願い申し上げます。

コロナ禍における橋地区内の地域活動への影響

高津区役所橋出張所 所長 高相 強志

橋出張所所長として着任し、はや2年が経過します。この間現在世界的に蔓延している「新型コロナウイルス」は、拡大縮小の波を何回となく繰り返しながら現在に至っています。この影響で、「橋ふるさと祭り」「橋の散歩道ウォークラリー」をはじめ、毎年橋地区社会福祉協議会の皆様にご協力いただいている様々なイベントも残念ながら2年続けて中止となり、また、橋地区で継続して開催されてきた親子運動会、ソフトボール大会、バドミントン大会、ゲートボール大会、自主防火防災訓練なども中止となってしまい、着任以来橋地区を代表するイベントの多くが開催できなかつたことが本当に残念です。さらに、様々なイベントを通じて育まれる橋地区にお住いの方の良さや絆の強さについては、他の地域にはみられない伝統であり、誇りであると思いますが、そこへの影響も懸念されます。

一方で、橋地区管内での個別の町内会・自治会の皆様方の活動は、感染状況を勘案し、予防対策などを講じながら、少しずつ取り組まれていくと伺っています。出張所としてもこのような状況を踏まえ、地域の皆様方にもご相談させていただきながら、コロナ禍での橋地区の地域活動に新たな発想や工夫を加えて取り組んでまいります。



橋出張所外観

コロナ禍でのふれあい会食会実施

橋第三地区民生委員児童委員協議会 坂本 京子

私たち橋第三地区民生委員児童委員協議会では、高齢者の社会的孤立感の解消や心身機能低下予防を目的に、プラザ橋においてふれあい会食会を実施して3年です。

令和3年度はコロナウイルス対策として、手指消毒・検温をスタッフ並びに来場者の方々にも徹底してもらい、椅子・テーブルの消毒も行いました。イベントについては密を避けるため、少人数で行っていただけるものを依頼し、ピアノ演奏、踊り、マジック、健康体操などを行いました。昼食については、以前のように調理したものをお弁当にすることができませんので、外注したお弁当とお茶をお渡しして、ご自宅で召し上がっていただきました。会食会再開以降、参加者は徐々に戻ってきました。現在は50人ほどがお見えになり、楽しい時間をすごしていただいています。実施中は参加者全員、前を向いて椅子に座っていただきます。久しぶりに会う方々とはマスク着用の上ではあ



りませんが、少しお話しすることもでき、ホッとできる場となり、スタッフとしても嬉しい限りです。密集を避けるためにスタッフのお手伝いは半分になってしまっていますが、スタッフで話し合いを重ねて、工夫をしながらこのような形にして実施することができ、何事もなく無事に令和3年度が終わりましたことに感謝申し上げます。

子育てグループの活動

親子サークル ヤンチャリカ 代表 坪内 かおり

親子サークル「ヤンチャリカ」です。子育てを楽しんでいますか？

希望に満ち溢れ子宝を授かり、ドキドキしながら出産を迎え、いざ子育てと向き合うと頭で思い描いていた理想の子育てとはならず、社会から取り残された環境に不安になるのは、稀な感情なのではないでしょうか？そんな感情を回避すべく、ヤンチャリカは、子育て応援隊として子どもの遊び場、親子の子育て支援の一環で活動している親子サークル団体です。

2002年、その頃は未就園児だった我が子の遊び場・子育て仲間づくりをきっかけに、高津区子母口こども文化センターを拠点に発足しました。当初、公園で2人きりで遊ぶ親子に声を掛け、集まる仲間が16組の親子でした。口コミで広がり、一昨年のコロナ禍では、65組の登録数となり、未就園児の親子の居場所を求めたニーズの高さを実感しています。ヤンチャリカの活動内容もピアノが弾けるお母さんがピアノを担当し、物づくりが得意な



お母さんが工作のアイデアを出し、教員免許など資格を持つお母さんが専門分野を担当したりして、子育て中も社会へとつながりがある場所として活動してきました。ヤンチャリカ運営は、2022年を迎え、20年目となります。十年ひと昔、そんな言葉を耳にすると、ヤンチャリカの20年は、時代に合わせながらも古き良き子育て感覚を残し、今も未就園児の親子の居場所の必要性を感じ、20年です。

地域の活動拠点として15年

高津老人福祉・地域交流センター 所長 今井重忠



一昨年より始まった新型コロナウイルスの流行は、一時的に落ち着きを見せてまいりましたが年明けより感染者が増加しており、いまだに日常生活を取り戻すことが困難な状況にあります。

このような状況の中、当センターでは感染対策を講じながら利用者の健康で豊かなシニアライフを支援するため様々な事業に取り組んでおります。

具体的には年2回、英会話や近代文学などの文系講座、ピラティスや太極拳などの運動系講座を開催し教養の向上を図るとともに、健康フェアや脳トレ足腰ストレッチなどの健康増進事業、春、秋のウォーキングやお気軽ふらつと体操などの各種レクリエーション事業を行っております。

また、日常生活の不安や疑問の相談に応じる生活相談や、精神科及び内科医師による健康相談、スマートフォンなどの操作方法などを専任相談員が指導するスタバ(スマホ・タブレット・パソコン)相談などを実施しております。

さらには、地域の活動拠点としてポッチャ大会など多世代の方々が集うイベントや休日夜間の有料貸館を行うなど地域交流事業も行っており、イベント開催時における洗足学園合奏サークルの出演や近隣保育園にセンターの利用団体のご協力による毛糸の手編み人形を寄贈させていただくなど、近隣施設との連携も積極的に進めてまいりました。今年も引き続き高齢者の拠点施設として活動を行うとともに、地域交流・多世代交流など地域に根ざした施設としてこれまで以上に事業を充実させてまいりますので皆様のご支援・ご協力のほどよろしく申し上げます。

活動報告

『地域ふくし講座』の開催について

厚生福祉部会 部長 飯田 嘉徳

厚生福祉部会では、橋地区の地域の皆さまを対象に、長年「介護講習会」を開催して...



「傾聴入門講座」「障害者相談支援センターってどんなところ？」の3つのテーマで「地域ふくし講座」として開催しました。

になったと感じています。受講した方からは、「傾聴についての具体的な経験が聞けて良かった」「技法や具体例をもっと聞きたい」「障害」と言っても、その人の特徴や状況によって対応が違うことを話してもらって改めて気が付いたなどの感想がありました。

高津区社会福祉協議会 「自助」&「互助」 2つの挑戦

自助 おたっしや 10(てん)のトライ

- 1 一日三食楽しい食事
2 減塩で食べよう 肉・魚・野菜
3 毎日歩こう 30分
4 みんなで参加公園体操
5 うがい 手洗い 健康のもと
6 体重・血圧・健康診断
7 ニュース 新聞 毎日チェック
8 みんなと話そう 一日10人
9 ご近所に一声かけて広がる笑顔
10 いっぱい遊んでいっぱい笑おう



互助 おたっしやでつながる地域の輪

- 1 できることから始める地域づくり
2 老若男女による地域づくり
3 みんなで考え話し合う地域づくり
4 次の世代へつなげる地域づくり
5 災害時支援につながる地域づくり
6 お互いさまの心が育つ地域づくり



活動の際は、感染対策にご留意ください。

末長子ども文化センターの活動と地域との繋がり

館長 久保 香織

子ども文化センターは、児童の利用だけでなく、乳幼児親子が遊べる専用スペースがあります。また、児童の利用がない時間帯は、地域の市民団体の方々に開放し体操や卓球などをするために活用していただいています。



バリアフリーマップを作ってみて

川崎市立東橋中学校 教諭 増田 勇輝

今回私たちは、「総合の学習の時間」で探究学習に取り組みました。そこでバリアフリーマップの作成を行うことになりました。

活動の際は、感染対策にご留意ください。バリアフリーに対応している場所を探すことです。実際に活動していく中で見えてくるものが沢山ありました。



関わってくださる方が多くいらっしゃいます。近年、核家族化が進み人々の関わりが希薄になる時代、子どもたちにとって地域の方々と一緒に楽しいことができる貴重な体験の機会に繋がっています。

この家の家との連携事業は、2015年からのモデル実施期間を経て、2018年より市内全ての子ども文化センターで始まりました。末長子ども文化センターでも毎年様々な形で交流を図ってきました。

活動することは初めての生徒が多かったです。そんな生徒たちからは、「普段は何も思わない少しの段差がキツイ」「舗装された滑らかな坂は上がりやすい」などという声があがり、新しい発見ができました。

バリアフリーマップ作成を通して生徒からは、「今まで気付かなかった私たちの町が見えてきた」という言葉が出ました。どのようなことも、より客観的に考えていくことの大切さを改めて確認できる貴重な時間になりました。



車いすの無料貸出事業

※橋地区社会福祉協議会では、ケガや介護などで、一時的に車いすが必要な方に無料でお貸ししています。



- (末長) 澁谷 博 866-9711, 猪平 信雄 877-7773, 小黒 欣三 833-9222, (新作) 福田 秀子 865-0261, 平田 恭子 888-9472, 石川 秀子 857-7147, (千年) 小宮 茂 754-1415, 山崎光佐夫 755-6614, 小泉 健一 777-3531, (千年新町) 白濱 昭 766-5896, (子母口) 吉野 豊 766-8006, 中島 和夫 788-8141, (久末) 森 恒夫 788-7898, 森 昭司 766-3693, 堀内 武雄 777-8128, (蟹ヶ谷) 田村 恒子 777-4062, (明津) 秋元 薫 766-2789

担当地区の民生委員児童委員または、上記の担当者へご連絡ください。

き、子どもたちは、「おじいちゃんおばあちゃんに来年も教えてほしい」「楽しかった」と笑顔でした。コロナ禍で直接ふれあう交流はできなくなっていますが、気持ちには伝えたいと今年度は末長小学校わくわくプラザの子どもたちが考えた壁面作品のプレゼントを届け、末長老人いこいの家に飾っていただき、心の交流を図りました。



令和3年度 高津区社会福祉協議会 賛助会員及び賛助会費について

橋地区内 905 件の会員の皆さまより 1,380,000円 (前年度比 61,000円減となりました。)

皆さまにご協力いただきました賛助会費は、ひとり暮らしの高齢者を対象とした会食や青少年福祉事業などの社会福祉事業に使われています。